

経済学部 試験問題用紙

高崎経済大学 (教務担当)

【試験の種類】 (該当項目を○で囲んで下さい。)

○前期末試験 後期末試験  
 追試験 再試験 平常試験

平成 28 年 8 月 5 日実施

金 曜日 4 時限 出題者氏名 藤利 友恵 (印)

教職での受講者は受講課程欄に「教職」と明記すること。

授業科目	受講課程	学生番号	氏名	採点	持込の可否
上級簿記					電卓のみ

問題 1 次の取引について仕訳してください。 (各 3 点×10 問=30 点)

(途中式等を書くとき、途中点はあげられますので、適宜記載してください。)

- ① 愛知商店は、岐阜商店に商品 280,000 円 (原価 200,000 円) を 4 回の分割で販売した。なお、回収基準 (未実現利益控除法) を用いること。
- ② 売買目的で保有する長崎株式会社の株式 100 株のうち、50 株を @1,200 で売却し、現金を受け取った。なお、長崎株式会社の株式は、当期中に複数回に分けて購入したもので、1 回目は 42 株を @900 で、2 回目は 28 株を @750 で購入している。会計処理に当たっては、長崎株式会社の株式の帳簿単価は、平均原価法により算定すること。
- ③ 支店は、本店の広告宣伝費 134,000 円につき、現金で支払い、本店はその連絡を受けた。この本店側の仕訳。
- ④ 大阪株式会社は、機械の修繕を行い、280,000 円を現金で支払った。なお、修繕引当金 200,000 円が設定されている。
- ⑤ 富山商店は、文学全集 (全 15 巻 予約販売価格は 1 巻当たり 450 円) について、52 名の顧客から申込があり、全額予約金として受け取り、当座預金とした。なお、この文学全集は、毎月末に 1 巻ずつ購読者に発送する予定である。
- ⑥ 秋田株式会社は、会社設立に当たり、株式 300 株を @70,000 円で発行し、払込金額は当座預金とした。なお、払込金額のうち、「会社法」で認められる最低額を資本金とし、株式発行その他会社の設立のための費用 150,000 円を現金で支払い、全額費用処理した。
- ⑦ 山形株式会社は、決算に際して、240,000 円の純利益を計上した。なお、前期からの繰越損失 20,000 円があった。
- ⑧ 北海道株式会社は、かねて振り出していた約束手形 240,000 円について、手形の所持人である青森株式会社に支払期日の延期を申し入れ同社の承諾を得て、手形の更改を行った。また、満期日の延長に伴う利息 12,000 円については更改時に新たな手形の額面価額に含めた。この場合の北海道株式会社と青森株式会社それぞれの仕訳を示しなさい。
- ⑨ 決算に、退職給付引当金の当期負担分 130,000 円を繰り入れたが、そのうち、従業員 1 名が退職したため、退職金 180,000 円を、小切手を振り出して支払い、退職給付引当金を取り崩した。
- ⑩ 富山支店は、金沢支店に仕入価額 140,000 円の商品を積送した場合の本店の仕訳を、①支店分散計算制度と、②本店集中計算制度にもとづいて、それぞれ仕訳しなさい。なお、振替価格 (外部仕入原価の 1 割増しの価格) で記帳すること。

経済学部 試験問題用紙

高崎経済大学 (教務担当)

【試験の種類】(該当項目を○で囲んで下さい。)

前期末試験 後期末試験  
追試験 再試験 平常試験

平成 28 年 6 月 5 日実施

金 曜日 4 時限 出題者氏名 藤利 夜恵 (印)

教職での受講者は受講課程欄に「教職」と明記すること。

授業科目	受講課程	学生番号	氏名	採点	持込の可否
上級簿記					電卓のみ

問題 2 下記の項目について、2 題を選択し、説明してください。(各 10 点×2 問=20 点) ※ 選択した番号を丸で囲むこと。

- ① (1)単式簿記と、(2)複式簿記とは何かとその特徴を説明したうえで、(3)複式簿記と単式簿記の違いとは何かを説明しなさい。複式簿記の形式的特徴と実質的特徴とは何か、答えなさい。
- ② 収益・費用勘定とは、(1)どのような取引において生じる勘定かと、(2)どのような性格を有する勘定かを説明したうえで、(3)なぜ複式簿記において収益・費用勘定の存在が不可欠であるか、説明しなさい。
- ③ 財務諸表を作成するに際して、なぜ仕訳が必要か、説明しなさい。
- ④ ある取引の発生から、損益計算書・貸借対照表の作成に至るまでの手順を説明しなさい。
- ⑤ 試算表のうち、合計試算表と残高試算表とはそれぞれどのような目的で作成されるのか、説明しなさい。
- ⑥ 決算整理とはどのような手続きか、その必要性も含めて、説明しなさい。
- ⑦ 精算表とは何か、その必要性についても併せて説明しなさい。

問題 3 群馬株式会社の決算整理前残高試算表は、精算表の残高試算表欄のとおりである。会計期間は、平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日である。以下の資料に基づいて、精算表を完成させなさい。なお、決算にあたって調査をした結果、【資料 1】の事実が判明したため、適正な修正を行う。また、【資料 2】は決算整理事項である。(30 点)

【資料 1】

1. 当座預金につき、銀行から取り寄せた残高証明書金額と帳簿残高金額が不一致であったため、原因を調べたところ、次の事実が判明した。
  - (1) 決算日に、四国株式会社に対する買掛金決済のために振り出した小切手 15,000 円が銀行に未呈示であったことが判明した。
  - (2) 決算日に、中部株式会社から売掛金 3,200 円が振り込まれたが、連絡がなく、未記帳であったことが判明した。
2. 商品に係る貨物代表証券(原価 150,000 円、売価 220,000 円)を得意先に掛けて転売していたが、未処理であった。
3. 試用販売のために試送していた商品(原価 100,000 円、売価 180,000 円)はすべて買い取りの意思表示を受けていたが未処理であった。なお、代金は後日受け取る予定である。

【試験の種類】(該当項目を○で囲んで下さい。)

○前期末試験 後期末試験  
 追試験 再試験 平常試験

平成 22 年 2 月 5 日実施

日曜日 4 時限 出題者氏名 藤利 夜東

教職での受講者は受講課程欄に「教職」と明記すること。

授業科目	受講課程	学生番号	氏名	採点	持込の可否
上級簿記					電卓のみ

【資料2】決算整理事項

- 売上債権の期末残高に対して2%の貸倒引当金を見積もる。なお、差額補充法により処理すること。
- 前期末に社債(当期首に額面100円につき97円で発行、当期首に購入、額面価額420,000円、償還期間5年、年利率4.5%、利払日6月末日と12月末日)を償却原価法により処理する。また、発行した際に生じた社債発行費については、繰延資産として計上し、償還期間にわたり定額法により償却を行っている。さらに、社債利息について、見越計上を行う。
- 売買目的有価証券の内訳は、次のとおりである。なお、評価には時価法を適用する。
 

銘柄	所有目的	帳簿価額	時価
● 中国株式会社	売買目的	15,000円	24,000円
● 九州株式会社	売買目的	27,000円	21,000円
- 固定資産について、減価償却を以下のとおり行う。
  - 建物 定額法(平成25年4月1日購入、耐用年数20年、残存価額はゼロ円)
  - 備品 定率法(平成28年1月1日購入、償却率20%、残存価額はゼロ円)
  - 車両運搬具 生産高比例法(平成27年4月1日購入、残存価額は取得原価の10%、見積走行距離10,000km、当期の走行距離1,200km)
- 期末商品の棚卸高は、次のとおりである。なお、売上原価は、仕入の行で計算し、棚卸減耗損および商品評価損は売上原価に算入しない。
 

● 帳簿棚卸数量	2,000個	実地棚卸数量	1,800個
● 原価	110円	正味売却価額	90円





